

沿岸漁場細密調査

I 調査目的

沿岸漁業振興の基礎となる漁場形成の基本的要因を解明し、人工魚礁設置の適地、増殖対策、年間操業計画に対する指標を与え、漁業経営の合理化に寄与する。

II 調査内容

- | | |
|--------------|---|
| (1) 調査期間 | 昭和44年6月1日～8月20日 |
| (2) 調査員及び調査船 | 調査課長 豊川 毅
技 師 沢田 兼造
技 師 真木 序夫
観音丸(6.06トンD35馬力) |
| (3) 調査海域 | 青森県日本海沖合 |
| (4) 調査項目 | |
| a 水深 | 深 |
| b 底質 | 質 |
| c 海底地形 | 形 |
| d 潮流 | 流 |
| e 水温 | 温 |

III 調査結果

- a 水深 調査方法として調査海域を磁針方位東西南北それぞれ1000m毎に区画し、その分画線上を航走して水深を測定した。これらは、調査終了後5万分の1図面に測点毎にm数で記入した。
- b 底質 aと同様2,000m毎に採泥し、採泥点毎に記入し、更に岩盤、(R)、礫、砂利、石(G, CS, ST,)砂、細砂(S, FS)、砂泥、泥(SM, M)、の4種に区分して底質範囲を明らかにした。
- c 海底地形 魚群探知機を使用して分画線下における海底地形を記録し、記録紙を整理し、写真撮影して保存した。
- d 潮流 極沿岸部における潮流の流向、流速について、簡易流速計を用いて調査した。この結果、津軽海峡入口に附近において、時速4哩を観測した以外は、概ね1哩内外で急潮域は、海峡部以外は、調査時期(6～8月)には、少ないことが分った。

IV 今後の課題及び問題点

- (1) 本調査結果については、調査後、水深、底質、海底地形等を総合して、南北二枚の地図に作成関係方面に配布してこの有効利用方について広報しているが、更に海底地形の存在様式などについて、実際の漁業生産と結びつく形で考察を加え、漁業生産と漁場形成との相互関係について究明する必要がある。
- (2) 漁場として更に開発される余地があると考えられる場所について、漁業試験を逐次実施することによって、未利用海面の高度利用を計る必要がある

日本海水深底質圖

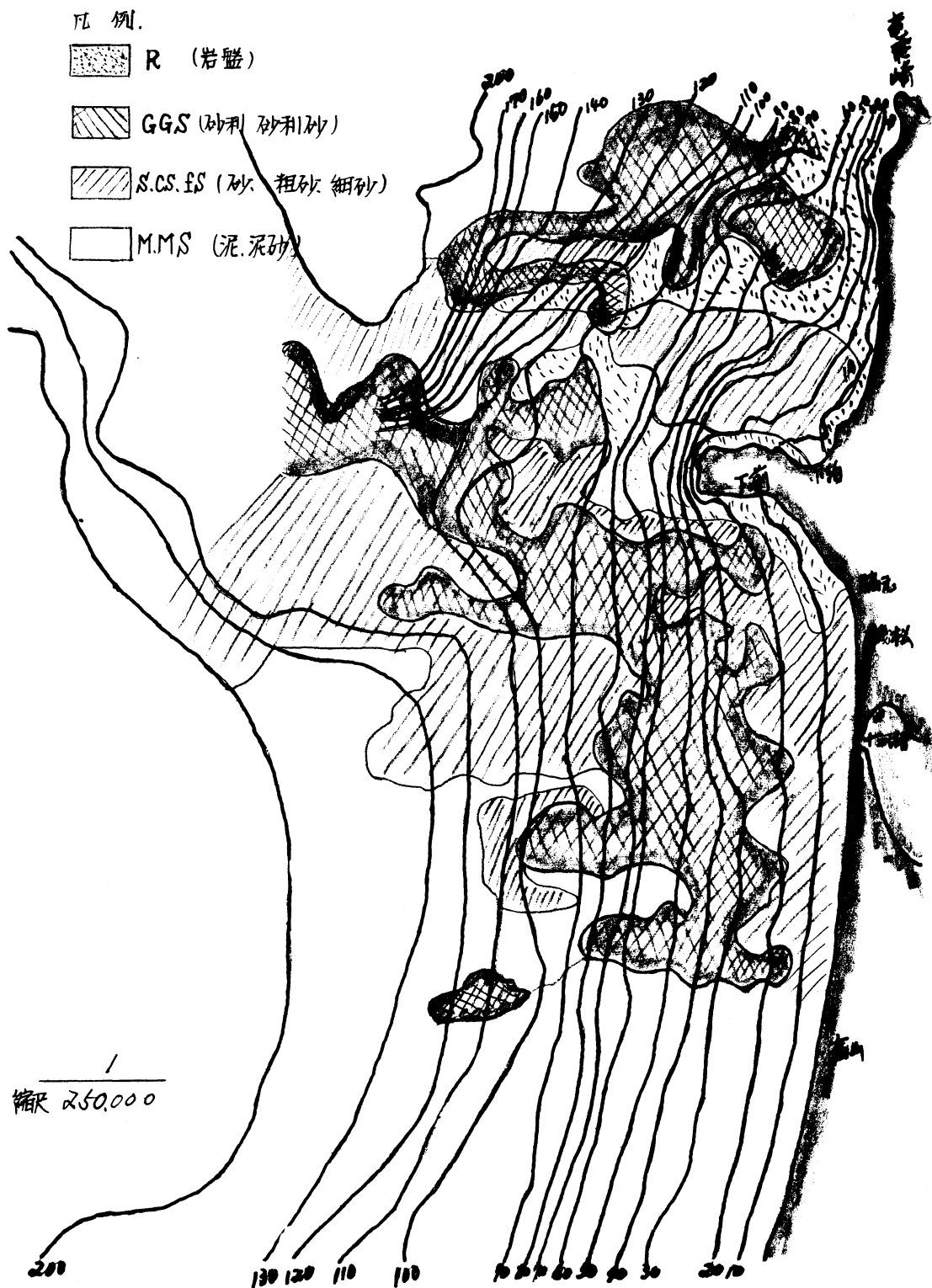
凡例.

R (岩盤)

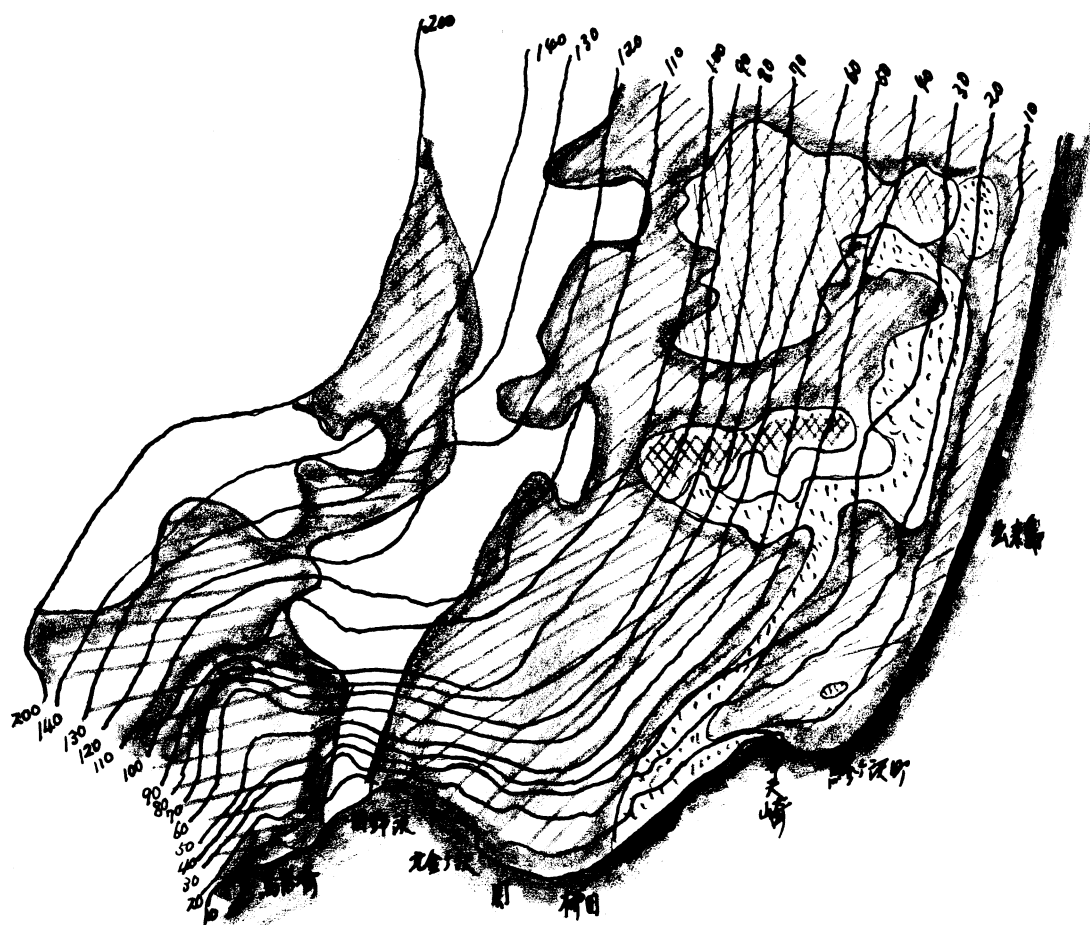
GG.S (砂利 砂利砂)

S.C.S. f.S (砂 粗砂 細砂)

M.M.S (泥.泥砂)



日本海水深度圖



日本海水深底图

